

1. 現状と課題

【新専門医制度(2017年～)】

地域における総合的外科教育の重要性がこれまで以上に増加している



【地域における外科教育システムの欠如】

若手外科医に対する良質な「地域における外科教育システム」は存在せず、各医療施設に委ねられている

2. 研究計画

【目的】地域における若手外科医に対し、良質で効率の良い外科教育を円滑に実行できる「地域における外科教育システム」の開発に向けて、大分県地域での外科教育の実態調査を行い、その課題を明らかにする。これにより、「地域外科教育システム(地域外科教育に関する大分モデル)」の構築をめざす。

【方法】

「大分大学外科研修プログラム」専門研修施設群

大分大学医学部附属病院＋大分県内の「大分大学外科研修プログラム」の専門研修連携施設 29施設

【対象】

- ・指導する外科医(指導医、専門医)
- ・指導される若手外科医(専攻医・研修医)

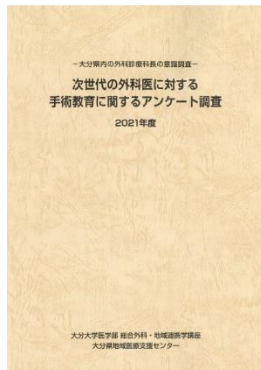


【調査項目】

- ①外科専門医取得に向けた外科教育の取り組み
- ②FD(faculty development)の在り方や外科教育の評価法
- ③教育成果
- ④指導医、若手外科医の満足度
- ⑤現状の課題と解決するための方策

3. 研究の進行状況

初年度にあたる今年度は、指導する外科医に対する大分県地域外科教育の実態調査を行った。



- ① 指導医(教育者)の年齢によって、外科教育方針に差異がある
- ② 合併症や偶発症の責任は、指導医自身にあると考える指導医が多い
- ③ 地域での外科教育の現状は、口頭での手術評価が多く、手術時間よりも出血量を重視している指導医が多い などが明らかとなった。